胆江二次医療圏における
救急医療体制の整備について

ー胆沢病院の現状からみた問題点ー

岩手県立胆沢病院　救急医療科長

渋谷俊介

救急車の搬入増に伴う問題点

- 連続して救急車が搬入されることで、一時的に医療資源を患者数が上回ってしまう状態が生じてしまうことが目立つようになってきた
- 急患数の増加により目が行き届かない状態となることが、安全面に影響を与えている
- 日当直の医師数を増員して対応してきたが、現状の職員数では医師及び看護師のさらなる増員は不可能であり、当院への一極集中状態を何とかして欲しいという職員の声が多数ある

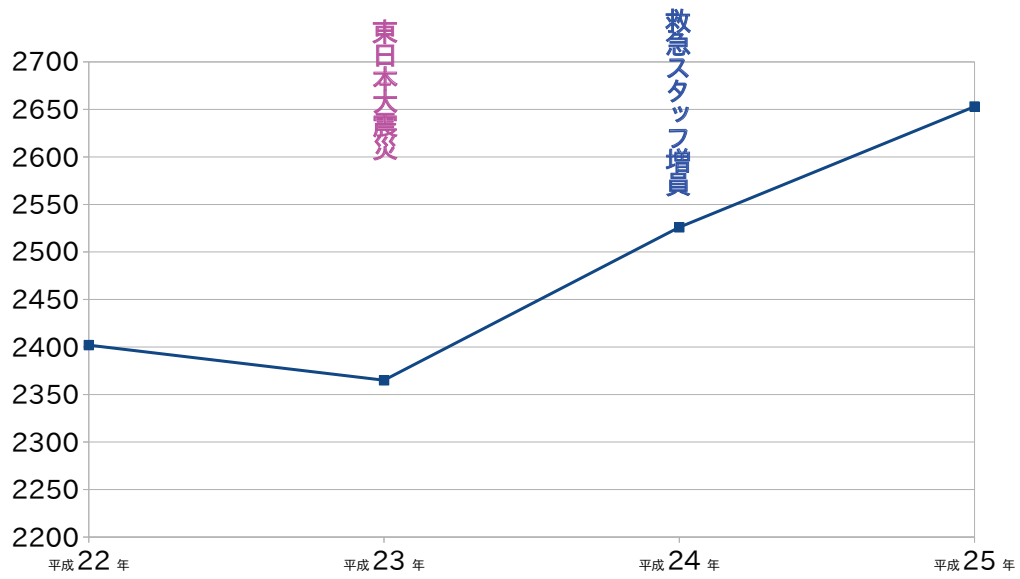
当院の救急医療体制

- 平日日中：前期研修医1名＋スタッフドクターか後期研修医1名＋救急室専任看護師2名
- 夜間：当直医2名＋半当直医（22時まで）1名＋当直看護師2名
- 休日日中：日直医3名＋日直看護師3名
- 事務当直、薬剤師、検査技師、放射線技師は1名ずつ
- この体制で、平成25年は、年間約13809例（救急搬送が2583例）の救急患者に対応

救急車の搬入増に伴う問題点

- 現在のところは何とか現状のスタッフ数でやりくりしているが、今のペースで救急車搬入数が増加していくと当院の限界を越えてしまうことが予想される。
- 救急医療が崩壊する可能性があるため、事前に問題点を解決するような方策を考えていただければと思っております。

当院の救急車搬入件数の推移



平成26年度は、2800台を越える予想

解決策について

- 胆沢病院の診療体制の強化

  →胆沢病院の医師・看護師を大幅に増員してベッド数も増床して、増加する急患に対応できるようにする。

- 地域内の病院間協力により救急車を振り分ける

  →かかりつけ患者さんの救急医療を各病院が行う。救急2次輪番制度の改善。休日夜間急患センターなどの整備